

# Historical Data Server ( HDS ) で高いディスク領域の使用量が表示される

## 目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題](#)

[解決策](#)

[関連情報](#)

## [はじめに](#)

ICM 7.0、7.1、か 7.2 システムからの拡張な データベース 移行ツール ( EDMT ) との ICM 7.5 への履歴データ サーバ ( HDS ) システムのアップグレードが、HDS 複製プロセス利用可能なディスク領域の使用率の増加を表示した後。それは 80% 利用しきい値に達し、Auto Purge オペレーションを誘発します。このドキュメントでは、この問題のトラブルシューティング方法について説明します。

注: これは ICM 7.0、7.1、か 7.2 から EDMT の ICM 7.5 へアップグレードされる HDS サーバでもっぱら観察されます。問題はアップグレードの直後に可能性のある見られません、長い期間発生する場合があります。

## [前提条件](#)

### [要件](#)

このドキュメントに関しては個別の要件はありません。

### [使用するコンポーネント](#)

この資料に記載されている情報は ICM/IPCC/UCCE HDS 7.5(x) に基づいています。

注: EDMT だけによってアップデートされたいし、HDS システムで存在するこの問題は口ガーシステムに。ICM 7.0、7.1、か 7.2 からアップグレードした顧客は、および ICMDBA の作成された新しい HDS データベースにこの問題がありません。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 ( デフォルト ) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

さい。

## 表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

## 問題

ICM 7.0、7.1、か 7.2 システムからの EDMT の ICM 7.5 への HDS システムのアップグレードが HDS データベースのこれらの表で、毎日 Auto Purge 誘発されなかった後:

1. t\_Termination\_Call\_Data
2. t\_Termination\_Call\_Variable
3. t\_Route\_Call\_Data
4. t\_Route\_Call\_Variable
5. t\_Dialer\_Detail
6. t\_Agent\_Event\_Detail
7. t\_Network\_Event\_Detail

その結果、HDS のディスク領域の使用率は一定時間にわたり増加します。HDS は 80% に達し、Auto Purge は複製プロセス ログのこのメッセージから開始します:

```
80% of the available free space is used in xxxxx_hds database"  
(xxxxx_hds will be replaced by the database name).
```

HDS が 90% 利用に達すれば、緊急パージはイベント ビューアーおよび複製プロセス ログのこのメッセージ概要と誘発されます:

Event ID: 49167

Description: Begin Automatic Purge: 90% of the available data space is used in the xxxxx\_hds database" (xxxxx\_hds will be replaced by the database name).

## 解決策

この回避策は SQL 2000 および SQL 2005 に適当です:

1. HDS システムで、ICM Service Control を実行し、ディストリビューター サービスを停止して下さい。
2. Microsoft SQL Server 管理スタジオ (SQL 2005)/SQL はサーバ クエリー アナライザ (SQL 2000) をおよび HDS データベースを選択します開いて下さい。名前は (「cname」が ICM システムのインスタンス名であるかところに) 「cname\_hds」です。
3. **File** メニューを通して、c:\icm\cname\aw\install ディレクトリにナビゲートして下さい。注 : **c** を取り替えて下さい: ICM がおよび ICM システムのインスタンス名によって **cname** インストールされているドライブを使って。
4. インストール ディレクトリの中では、ファイル **dailypurgesp.sql** を選択し、開いて下さい。
5. スクリプトがおよび表示された画面上ロードされたら、**dailypurgesp.sql** スクリプトを実行するために **F5** を押して下さい。スクリプトはエラー メッセージ無しで動作する必要があります。
6. 管理スタジオ (SQL 2005)/ は SQL サーバ Enterprise Manager SQL サーバ エージェントがアクティブであることを (SQL 2000) を使って、確認します (アイコン内のグリーン三角

形によって示されています)。SQL サーバ エージェントが非アクティブである場合、SQL サーバ エージェントを右クリックし、次にプロセスを開始するために『Start』を選択して下さい。

7. 管理スタジオ ( SQL 2005)/ は SQL サーバ Enterprise Manager ( SQL 2000 )、SQL サーバ エージェントを右クリックし、『Properties』を選択します。General タブで、2 つのチェックボックスを見ます。チェックボックスを予想に反して停止したら予想に反して停止するオート再始動 SQL サーバ エージェントがチェックされたら場合ことをオート再始動 SQL サーバ 確かめれば。
8. Properties ダイアログの下部ので『OK』を押して下さい。
9. Microsoft SQL Server 管理 ( SQL 2005)/ SQL サーバ Enterprise Manager スタジオ ( SQL 2000 ) をおよび SQL サーバ クエリ アナライザ ( SQL 2000 ) 閉じて下さい。
10. ICM Service Control では、サービスを再開して下さい。

## **関連情報**

- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)